

市の教員の働き方改革進捗状況

○校務支援システムの導入…学籍・出欠・成績等の児童・生徒の情報を一元管理できた▽一同に集まりにくい教員間での情報共有が行いやすくなり、業務量の多い副校長は掲示板機能を使って他校との連絡等ができた ○学力パワーアップサポーター、スクール・サポート・スタッフ (SSS) 等の配置…学力パワーアップサポーターは授業の個別支援や放課後の補習学習を行う等の教員補助を、SSSは印刷業務や感染症対策の消毒作業等を行うことで、教員が児童・生徒への指導や教材研究等に注力できるようになった ○給食時等の対応の充実…給食時等のアレルギー発生時に教員以外の職員も対応できるよう、教員以外の職員を対象に研修を実施した ○ライフ・ワーク・バランスを実現する環境整備…例年8月に学校閉庁日の設定を行い、5日間の夏季休暇を教員が確実に取得できるようになった ○出退勤管理システムの導入…時間外在校等時間が客観的に把握でき、効率的に業務を行うという教員の意識が向上した ○部活動の負担軽減…部活動ガイドラインにより生徒が週当たり2日間以上の休養等を適切に取り、短時間で効果的な活動を実施できた▽地域人材である部活動指導員が中学校全校に配置され、教師の負担軽減につながった ※詳しくは指導室☎470・7781へ。



効果確かめながら進めていきます

(1面から続く) ○岡田校長 今でも心掛けていくことがありません。「人はできない理由を考へることは得意で、誰でもすぐに考え付く。先ずは、どうしたらできるようなものかを考えることが大事だよ」と指導していただきました。「難しいです。できません」と先にも言っていますが、禁句ではないが、先にも言っていました。「指導主事時代に経験する事務や調整等のスキルが教員に戻った時にも生かされることのあるので、指導主事という職務が法律により定められているんじゃないか」と先にも言っていました。○岡田校長 私の場合ですが、指導主事時代に日々学校を訪問し、校長先生の経営方法や授業を数多く参観できたこと、いろいろなことを学び、学校現場に戻った時に生かされています。教育行政も経験したことで教育委員会の役割を学ぶことができ、教育委員会と学校が手を携へ、自校の教育

だけでなく、市全体の教育を向上させていくことが重要であると身をもって感じていました。「現在、指導主事の事に就かれています教員の皆さんに向けてメッセージをお願いします」 ○岡田校長 「がんばれ」の一言だけではすみません。大変なことが分かっていますから。なので、大変な時には遠慮しないで周囲の力を借りたらいいいと思います。教員は子どもたちに対して指導や助言をする立場になりますから、自分のことになると遠慮してしまうというか、周囲の助けを借りにくいのかもありません。それと、「学校と教育委員会のパイプ役」であることに誇りをもって仕事をするために、できれば毎日、学校を訪問してほしいと思います。指導主事は学校運営の支援や相談を担う立場にいますが、仕事の進め方に困ったら、逆に学校現場を訪れ、校長、副校長や教員の話を聞いて

疑問に立ち戻ってみるというか、相手の懐に入ると言うか、そういうことがあってもいいのではないかと思っています。「小学6年生だった岡田少年の揺るぎない思いが全うされ、なりたかった職業に就かれたことを伺い、「キャリア教育」の大切さも感じました。小山小学校は今年度は「キャリア教育」の研究推進校になっていきます。子どもの時に将来どんな職業に就きたいかという思いを馳せることは楽しいですし、日々の学業の励みにもつながると思いますので大事ですね」 ○岡田校長 本当に教育界一筋でした(しみじみ)。指導主事になりこまできましたが、教員だけではないいろいろな立場を経験できて、仕事だけでなく、人生における自分の幅が広がりました。このことは自信をもって言えます。

本校で進めているキャリア教育も、子どもたちが様々なことにチャレンジして、たくさん経験ができるように取り組んでいます。そのためには、やはり子どもたちが主体的に人と関わりながら考えていくことが大切だと思っています。自分で考えて何かをやり遂げたとき、ものすごい自信となり自己肯定感も高まるのではないかと思います。なりたい自分を目指して、自らの力を高めていってほしいですね。

市立南中学校の 小川高弘校長に聞く

「教員の多忙な働き方が大きな問題となり、本市でも改善を進めています。職場は異なりますが、同じ教員である指導主事が、学校と教育委員会のパイプ役という重要な業務を担っています。学校から見ると「指導主事」はどういう存在ですか」 ○小川校長 指導主事と学校との関わりは多くは学校経営への支援の面で、副校長とのやり取りが中心になります。副校長には、日々、市や都の教育委員会に提出する書類作成業務があり、都は市の教育委員会が確認します。文字どおり、指導主事が都教委と学校のパイプ役となっています。



管理職になる前は、指導主事と接する機会がごく僅かです。初任者時代から3年目までの若手教員研修には担当の指導主事がつきませんが、その後には会う機会が少なくなりました。このインタビューを受けて、久しぶりに統括指導主事時代のことを思い出しました。教育委員会からは、「指導主事は教育に関してオールマイティで、すごい専門職なんだ」と思っていました。しかし、自分がその立場になってみると、良い意味で、そうでもないことが分かりました。子どもを育てることが教員の仕事だとイメージして教職を目指してきた方がほとんどだと思います。指導主事の中には、指導主事の仕事には、自らの希望で指導主事として働いている方もいます。教員全員が指導主事としての適性を備えているとは限らないと思います。それでも私が出会った指導主事も、これまでの教職経験を生かした得意分野だけに頼らず、自分が知らない分野の知識を常に取り入れようと、相当な努力をされていました。学校に向かう時はベストな内容を、というプライドもあると思います。

「そういう前向きな気持ちを持つことはどの職業にとっても大事だと思いますし、「期待に応えたい」ということも目標になりますね」 そうですね。でも、体調を崩すほどの無理はせず、自分に与えられた時間と仕事を計画的に、楽しんでこなしてほしいと思います。こつと言えり、各々学校への指導や助言を行うという指導主事の業務には学校の様子や課題などを把握しておくことが必須ですから、学校と指導主事の間コミュニケーションを大事にした方がいいと思います。「現状では公立学校の教員数の確保が先だと思えますが、誰かが「指導主事」になることが求められていきます。指導主事になるかと思っている教員に向けてのメッセージをお願いします」 指導主事の仕事には、教育行政の事務仕事だけでなく、主として学校や教員に対する指導・助言の若手教員は、教員としての指導力を高めることが先ずは大事です。それから自分の知識と経験を積み重ねて、目の前の児童・生徒を育てるだけでなく、「児童・生徒を育てる教員」を育てる。という考えが変わると、指導主事も視野に入ってくるのではないかと



と思います。私は副校長からすぐに校長にならずに、短期間でしたが教育委員会で統括指導主事として勤めたことで、それまでは違う視点から学校を見ることができました。自身の経験からですが、一度は、新しい視点から学校を見てみることは大いにありだと思っています。市教育委員会の榎田克之指導室長に、指導主事に期待していることについて伺いました。「指導主事の業務が非常に多いことは、指導主事を経験してきた私もそう感じています。指導主事が対応する業務には担当する調整事務のほか、保護者からの問い合わせの電話対応が相当あります。内容の多くは学校に対するご意見やご要望で、先生のこと、授業のこと、学校の友だちのことなど、学校生活全般にわたっています。直接、学校にお話していただいた方が迅速かつ適切な対応が取れる場合が多いのですが、指導室に電話やメールが入った場合は、先ずは指導主事が受けています。同時に幾つもの相談に対応しているのが現状です。空いた時間で、ようやく本来の職務である、教

員の研修等の充実や授業改善に関する調査研究を行っています。毎日、頻りに電話や窓口での対応に追われている様子を見ているので、保護者の皆様にもご理解をいただきたく、「指導主事」の業務改善も速やかに対応すべき働き方改革の課題として捉えています。今号では岡田校長先生と小川校長先生から指導主事へのエールを送っていただいたと、指導主事ともども受け止めています。指導主事は学校と教育委員会の関わりにおけるパイプ役であると思っていますが、ここ2年間は初めての課題であるコロナ禍の対応などに集中しがちで十分にその役割を果たせられず、学校の期待に応えられていない部分もあつたと思います。指導主事の働きによって学校が変わり、教員が元気になることが子どもたちのためになる。と、私は指導主事時代に言われました。指導主事の職をこなし、教員としての力をさらに培ってほしいと思っています。指導主事の業務内容をさらに精査し、指導主事が学校に戻ってからも生き生きと仕事ができるよう見守ってまいります。」

【編集後記】

教育委員会だよりは創刊から60号を迎えました。年2回のほそぼそとした発行ですが、紙点が線になるような紙面づくりを目指します。